資料１

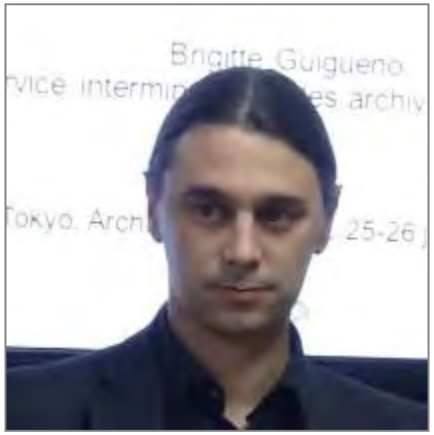
海外専門家招聘による視察・ヒアリング報告

国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査（海外専門家招聘調査）

日程	視察先／【視察・ヒアリングの観点】	調査参加委員等
1月25日	・国立公文書館本館 【調査・研究支援機能、展示・学習機能】	永野 和男 委員 松岡 資明 委員 永野 晴康 広島女学館大学 国際教養学部専任講師
1月26日	・国立公文書館つくば分館 【保存・修復機能】	永野 晴康 広島女学館大学 国際教養学部専任講師

■招聘を受けた専門家

Mme Brigitte Guigueno
ブリジット・ギグノ氏
フランス文化通信省
省庁間アーカイブス部
公衆化政策担当



M. Gaël Chenard
ガエル・シュナール氏
オートザルプ県公文書館館長
※フランスでは、国から出向した
職員が各県公文書館館長を担当

Mme Leroy-Banti
ルロワ＝バンティ氏
ピエールフィット館
修復専門官

調査・研究支援機能 ― 現況の評価と助言

● 現況評価

・資料閲覧、マイクロフィルム閲覧、情報検索など、機能毎にエリアが明確にされている点は評価。

● 今後の施設整備に向けた示唆

（機能面）

・インターネットによる利用者の拡大により、閲覧室に求められる役割は変化している。単なる閲覧の場所から、調査研究のためのコンサルタントやディスカッションの場へ変わっていくのではないか。

・検索手段の充実、自力での調査が難しい利用者への手厚い対応等により、来館して利用する者の利便性を高めることも必要。

（施設面）

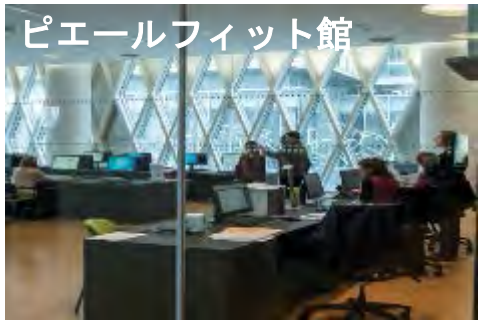
・視覚・聴覚障害等へのバリアフリー対応は必要。

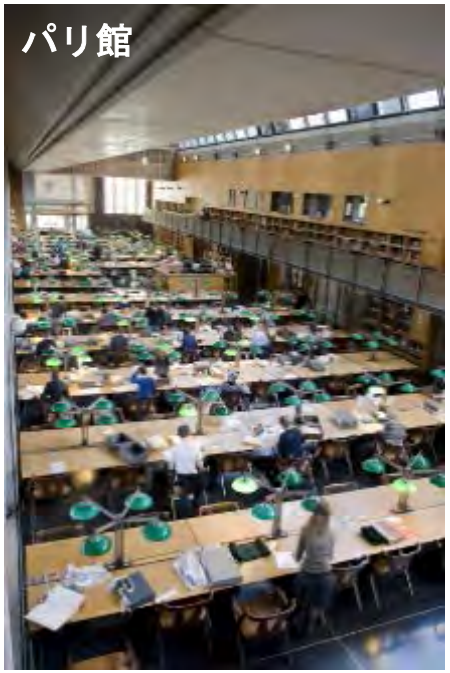
・閲覧室は必須機能であるが、利用のニーズは流動的であるため、来館者の動向に合わせて（利用者によるグループ作業、一般利用者補助の相談対応など）容易に改装できるような可動性が必要。

・利用者が調査を進めるためのネット環境（Wi-Fi設備など）の整備も検討しても良いのではないか。

【参考】

■閲覧室の比較





■バリアフリー対応

弱視者用
拡大鏡付きモニター

視覚障害者用
音声読み上げ機器

展示・学習機能 ― 現況の評価と助言

● 現況評価

・与えられた条件の中で努力しているが、展示ケースの高さがあり車椅子利用者が見にくい、展示物がライン状に並んでおり高さが一定であるため見る人が疲れやすい、といった問題がある。

● 今後の施設整備に向けた示唆

（機能面）

・公文書だけでなく、映像や、他の資料を組み合わせた展示により、公文書への理解を深めるとともに、一般の人々の興味・関心を醸成。

・明日の利用者となる子供たちや学生を呼べるような展示が望ましい。

（施設面）

・展示位置の高さなど、車椅子利用者や子供への配慮が必要。

・ライン展示ではなく、視線や動線も配慮して大きさや高さの違う展示ケースの設置や、映像も含めたインタラクティヴなものを入れるなど、展示に変化をつけるとよい。

【参考】リヨン郡公文書館「リヨンにおけるイタリア移民」

展示会に合わせて、コンサートなどを開催。

展示・学習機能 ― フランスの事例①

● フランスでは、さまざまなワークショップやイベントを開催

・演劇、コンサート、舞台ともコラボレーションした文化活動や、街歩き（資料をマッピング）などを実施。

・大人向けのイベントに加え、教育のためのイベントは4才～大学生を対象に実施。

● 専門担当者の配置と外部との連携

・学習・教育の担当はパリ館とピエールフィット館を合わせて20名。必要に応じて外部と連携して人を招集。

・展覧会のコンテンツづくりには外部有識者の委員会を設けて展示の骨組みを組み上げていく。また、博物館や美術館等のキュレーターとの交流も盛ん。

● 終了後もアフターイベントとして活用

・イベントの映像をインターネットで配信するなど、活動内容を徹底的に利活用する。

大人向けワークショップ

建物見学

公文書をテーマとして作られた映像によるプロジェクションマッピング（※）
※建物などの立体物に映像を投影する手法。

著名俳優による朗読会

ピエールフィット館の大ホール

展示・学習機能 ― フランスの事例②

● **フランスでは学校団体の受入れに積極的**

・学習指導要領を踏まえた展示・学習を準備。

・学校の教師を対象としたセミナーを開催。

・ワークショップを充実。

・教育に資する学習メニューをインターネットでPR。

・インターネットを通じた見学申し込みが可能。

ＨＰに教育者向けの情報

展示室を利用した学習

ワークショップ

教師たちを対象としたセミナー
フランスがいかに豊富な文書を持っているかを示し、学校見学を増やすことを目的として開催。

保存・修復機能 ― 現況の評価と助言（保存）

● 現況評価

・つくば分館の保存環境（温湿度管理、消火設備等）について、高い評価。また、貴重書庫の内装及び引き出しの素材について高い関心。

※つくば分館の貴重書庫は、床がブナ、棚がスギ、引き出しはクスノキ材を使用（スギやクスノキには防虫効果あり）。

● 今後の施設整備に向けた示唆

（機能面）

・利用頻度で保存施設を分けるというよりは、何をデジタル化してインターネットで利用できるようにするか、しないものは何かということを踏まえ、利便性が高い施設に置くべきもの（原本利用）とそうでないものを分別。

・保存の観点から、他施設が所蔵する原本資料を移送して利用させるのではなく、ニーズがある場合は、オンデマンドによりデジタル化を行って利用に供することを検討するとよい。

（施設面）

・空気の循環、非常時のガス消火のために、書架と天井の間に空間を設けた方がよい。

・排架の簡便さ、出納・管理の観点から、バーコードによる資料管理を行うことを検討してもよいのではないか。

保存・修復機能 ― 現況の評価と助言（修復）

● 現況評価

・修復環境及び修復方法等について高い評価。

・用途に応じて和紙の質感や厚みを変えるといった工夫に高い関心。
※フランスでは入手できる皮材の質が低下しているため、羊皮紙の修復に和紙を使用する場合が増えている。

● 今後の施設整備に向けた示唆

・保存と修復は、緊急時の措置も可能な、近接した場所で行われる必要がある。したがって、書庫があるところには必ず保存・修復機能を持たせるべき。

・災害時には、緊急に修復を要する資料か否か、事故や損傷など緊急対策全体を統括するために、それぞれの施設にある程度の知見を有した職員（判断権者）を配置する必要がある。

【参考】ピエールフィット館　修復室

・複数の修復室を設置し、特殊作業や個別作業といった各用途に対応可能な空間づくりをしている。また、作業台は全て可動式で、作業に応じて空間を自由に使うことができる。

・紫外線をカットしつつ外光が入る明るい作業環境。